

研 究 分 野	魚類栄養	部名	魚類部
研 究 課 題 名	マダラ幼魚の飼育実験		
予 算 区 分	独法委託		
試験研究実施年度・研究期間	H. 1 5 ~ H. 1 6		
担 当	松坂 洋		
協 力 ・ 分 担 関 係	東北区水産研究所八戸支所		

〈目的〉

マダラ当歳魚の摂餌量と水温との関係を調べるとともに、それらが成長に及ぼす影響を明らかにし、餌料環境および物理環境とマダラの成長の関係を明らかにする。

〈試験研究方法〉

種苗生産した稚魚から養成したマダラ幼魚の頭頂部から背部皮下に、アクリル絵の具を注入して個体識別をし、1m³パンライト円形水槽に25尾ずつ収容して、5、8、11℃の3水温帯で、魚体重の1%、5%、10%の配合飼料の給餌による個体毎の摂餌量を調べた。

給餌は2～3日に1回とし、給餌の際には、個体毎に配合飼料の摂餌個数を把握した。

試験期間は40日間とした。

〈結果の概要・要約〉

試験の結果、当初に計画した魚体重の10%を摂餌しないことがわかった。

また、5℃では摂餌量がやや下がるが、8℃および11℃では摂餌量にあまり差がないことが明らかとなった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

現在、データの取りまとめ中である。

〈今後の問題点〉

個体識別のために、アクリル絵の具3色（水色、黄緑、ピンク）の組合せで、個体識別用標識としたが、照度が低く、絵の具の挿入状態によっては、水色と黄緑の区別が付きにくく、個体識別用標識としては問題が残った。

〈次年度の具体的計画〉

再度同様の実験を行い、摂餌量を明らかにする。

〈結果の発表・活用状況等〉

特になし。